

おしる 「上山城」からのたより 春・第83便

内裏雛の系統

——京都・大坂か、江戸か

東北の春は関東よりも遅いので、桃の花が咲く時期に併せて旧暦で雛まつりを祝う地域が多いとされています。今年の旧暦三月三日は新暦の四月九日ですが、「やまがた雛のみち」に協賛している施設の多くは新暦四月三日まで展示しているところが多く見受けられます。

写真は「御殿飾り」と呼ばれる内裏雛です。この御殿飾りは江戸時代末期に京都・大坂に登場した形式で、



長沼家 御殿飾り

京都御所の紫宸殿になぞらえたものと思われれます。明治時代にはその周辺にも広がり、豪華なものから簡素なものまで様々作られました。御殿の中に飾れるように内裏雛自体は小振りに作られ、三人官女と隨身、五人雛子、桜と橘などが添えられています。

時々、内裏雛の制作年代やどこから買求めたものを聞かれることがあります。人形自体に記録されていないため判別することは容易ではありませんが、人形の顔立ちや姿、その家の生業などから京都・大坂系のものか江戸系のものか、ある程度判別することができるともありません。

例えば、顔立ちが面長で描き目であるものは京都・大坂系、眼にガラス玉などを使用しているものは江戸系、女雛が手を袖から出して椀扇を持つのは京都・大坂系、手を袖の中に隠しているのは江戸系、などです。

昨年、人形の調査をされている専門家が当館の雛人形を観て、その多くが京都・大坂系の内裏雛のようであるとおっしゃっていました。上山藩は大坂加番(大坂城の警護)の役を務めた回数が全国一でしたから、武家、商人ともに京都・大坂へ出向く機会も多く、また天皇がいる古都・京都への憧れもあったのか、上山では京都・大坂ブランドが好まれ人気があったようです。

(公財)上山城郷土資料館 学芸員 大場 浩子

【訂正とお詫び】本誌一七八号の「上山城」からの便り厳冬 第八十一便の文章中に誤りがありました。①「上山藩丸野家」は「上山藩丸野家」、②「鯉の絵」は「獅子の絵」、また③「獅子の絵」は「丸野清耕の弟子の作」の誤りでした。訂正させていただきます。関係された皆様にお詫び申し上げます。